

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(288)

電力確保力

3月に米国ワシントンDCにおいて、「ARPA-E（米国エネルギー高等研究計画局）エネルギー・イノベーション・サミット2025」が開催された。24年までの再生エネルギー、水素ハブ（製造、流通、貯蔵）などのカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）に関するテーマから大きく変わり、25年の主要テーマは原子力（核分

裂、核融合）、次世代地熱エネルギーなどの研究開発であった。

ため、米国エネルギーえる成果展示とともにAI（人工知能）開発は、ある種の「エネルギー集約型の製造業」であるとも発言した。これは今後、限られた電力でいかに多くのコ

「未来を拓く：FOLGERING THE 42億ドルの資金を拠出し「FUTURE」と題を強調した。さらに、

米エネ政策転換、供給拡大

ARPA-Eは、既ている。毎年開催された25年のサミットで莫大（ばくだい）な電

科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
フェロー（環境・エネルギーユニット）
馬場 智義

九州大学大学院総合理工学研究科修士修了。重工業メーカーにて研究開発・技術企画などに従事。24年3月より現職。環境・エネルギー関連分野の俯瞰調査と戦略立案を担当。修士（理学）。

ARPA-E エネルギー・イノベーション・サミットで取り上げられた主なテーマ

2024年	2025年
- 再生可能エネルギー普及促進 - 産業プロセスにおける脱炭素化 - エネルギー貯蔵技術開発	- 原子力エネルギー利用 - 次世代型地熱発電 - 地質学的水素探査

日本は準備を

日本でも、今後のエネルギー需要を増加を前提とした政策を準備している。国内外の情勢変化や日本固有の事情を踏まえ、低炭素の実現しつつエネルギー安定供給と経済効率性の確保を目指す。政府は「第7次エネルギー基本計画」および本計画」および（金曜日掲載）

るかという競争が世界で激化することにもなりかねないことを示している。

かに使用電力を確保す

ほか